事業報告概要書（公表版）

公表様式

1　基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
大神山公園	（指定管理者名）公益財団法人　東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1　～　R5.3.31（7年間）	

2　施設名

大神山公園

3　収支（単位：千円）

項目		金額	収支に関する説明
収入　計		63,685	大神山公園：63,499
内訳	指定管理料	63,685	
	利用料金	0	
支出　計		63,499	
収支差		186	

4　管理運営の概要

〇新型コロナウィルス感染症拡大予防措置に係る取組

・手指消毒液等の設置や「新しい日常」を踏まえた園内掲示、イベント時の検温、ソーシャルディスタンスの確保のほか、職員のマスク着用、うがい手洗い等の徹底、サービスセンター内の換気やパーテーションの設置等により、感染症拡大予防措置に取組みました。

〇小笠原を特徴づける自然環境、生物多様性の保全

・小笠原の自然環境保全を推進し、SDGs目標14の達成に寄与するため、環境省等による「海ごみゼロ活動」に参加するとともに、大村海岸でのマイクロプラスチック回収活動等を、公園利用者や関係団体と協力しながら実施しました。

・伐採・植栽計画に基づき、関係団体と連携した外来種の伐採及び固有種の植栽の実施により、公園が持つ本来の魅力を引き出し、広報に活用しました。

・アカガシラカラスバト等の野生動物の食物になっているガジュマル等の外来種については、小笠原支庁や関係機関と協議しながら固有種の生育を妨げない範囲で残す等、現状を踏まえた順応的植生管理を行いました。また、アオウミガメの産卵・孵化時期には、関係施設と連携し、園内灯の消灯、迷走防止柵設置及び遮光扉の閉鎖等の管理を行うとともに、掲示物やホームページにて観察時における注意喚起を行う等、希少動物に配慮した取組を実施しました。

〇多様化するニーズに応えるサービスの充実

・ガイドウォークでは、動植物等の自然情報や歴史・文化財等の人文情報の解説に加え、外来種の解説や状況に応じて外来種の駆除体験を行いました。また、モニタリング調査等から得られた情報を適宜解説に盛り込み、現地ならではの情報提供を行いました。

〇施設の魅力を効果的に伝える広報活動の展開

・TOKYOMXテレビとの連携を図り、大神山公園メイン展望台のライブカメラの映像をニュース映像の背景や天気予報などに活用するとともに、大神山公園・小笠原ビジターセンターの情報提供を行い、情報発信の拡大強化を行い、小笠原・大神山公園の「今」の魅力を島外の都民にも伝えることができました。

・大神山公園の見所や旬の情報を掲載したニュースレターを、島内約100箇所の宿泊施設や店舗、都内の他ビジターセンター等に配布し、島内外に広く広報しました。また、竹芝客船ターミナルのデジタルサイネージでの情報掲載、おがさわら丸船内へのポスター掲出など、乗船者にも効果的なPRを行いました。

・小笠原海運、小笠原村観光協会、小笠原村観光局等の小笠原観光の際によく利用される各サイトに、大神山公園・小笠原ビジターセンターのHPにリンクするバナー掲載を行うとともに、小笠原村観光局HP内の小笠原マガジンに記事を投稿しました。また、Twitterを平日に毎日投稿し、小笠原のタイムリーな情報を高い更新頻度で伝えました。YouTubeでの動画配信も試行実施しました。

・小峰ビジターセンターと連携し、「小峰ふれあい自然郷収穫市」において小笠原紹介コーナーを設け、大神山公園・小笠原ビジターセンターのPR活動を行いました。

5　管理状況（維持管理）

・メイン展望台へ至る園路沿い、メイン展望台周囲からパノラマ展望台方面への**外来種駆除**を行いました。特に二見湾の眺望を遮っていたリュウキュウマツを除去したことで、**大神山西峰の古称「テンノミヤマ」の由来であるタチテンノウメ越しに二見湾を見渡せる**ようになり、公園利用者から感謝の言葉をいただきました。

・風速50m以上の**超大型台風襲来に備え、お祭り広場の外周高木を剪定**した結果、近隣住民から「大型台風が来ても不安がなくなった。以前のように旭山の山頂が家から見られるようになってうれしい！」と感謝の言葉をいただくなど、園内外に安心安全な環境を提供することができました。

・地元NPOと連携し、**ヒメツバキの谷入口やおもてなし花壇**に、父島の自生地でもほとんど見ることができなくなった絶滅危惧種Ⅰ類のチチジマイチゴ、ムニンタツナミソウ、ナガバキブシ等の固有種を植栽しました。**誰でも気軽に小笠原の固有種等が観察できる**ことから、島内ガイドにも活用していただき、観光客や島民から好評をいただくことができました。

・**環境省、小笠原支庁、小笠原村、NPOと協力し、「海ごみゼロ活動」を推進**しました。大村海岸にて、おがさわら丸の出航スケジュールに合わせた観光客や島民への呼びかけ、回収ボックスの設置等を行い、**マイクロプラスチック回収・啓発活動**を年間を通して実施しました。子どもにも分かりやすい内容で作成した**啓発チラシを、小笠原小学校の全児童に配布し、環境保全学習**に役立てていただきました。

・道路に近いガジュマルの落果清掃により、採食のために飛来するアカガシラカラスバトの受傷事故を防止しました。また、アオウミガメ産卵時期や子ガメ孵化時期、ミズナギドリ巣立ち時期は各専門機関と調整を図った上で園内灯を消灯等の対応をしました。

・オガサワラオオコウモリの食物であるモモタマナの剪定時期の調整やテリハボクの植栽等を行ったことで、オガサワラオオコウモリが大村中央地区に飛来し、採食している姿が見られました。また、多くの食痕からオガサワラオオコウモリの存在を公園利用者に感じていただくこともでき、貴重な生息地としての大神山公園をPRすることができました。

・バリアフリー推進のため、大村中央地区の段差解消や大神山地区の石段の補修を行い、公園利用者から感謝の声をいただきました。

・**小笠原高等学校と連携**し、ヒメツバキの谷入口付近で外来種駆除・植栽作業を実施しました。生徒による活動をPRする看板も設置し、公園利用者に新たな自然環境観察の場を提供しました。また、**小笠原小学校と連携**し、大神山公園をフィールドとした総合学習「小笠原の植生を学ぶ」「公園を作ろう！2」の授業に協力しました。これらの活動は、次代を担う子ども達への有益な環境教育の機会となり、地域連携の促進や公園そのものの魅力向上につながりました。

・**委託業者が安全管理を徹底した上で作業を実施できるよう、職員が作業前のKYミーティングに参加**し、安全管理対策への指導や助言を実践しました。その結果全ての作業において無事故とすることができました。

6　利用者アンケート結果

実施方法：

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
大神山公園	4.8	4.8	4.7	4.9	4.8

7　入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
大神山公園	231,977	コロナ禍による来島自粛で入園者は減少したが、島民の憩いの場としての重要性が増しました。
合　計	231,977	

「海ごみゼロ」を目指し、島民や観光客と一緒に取り組んだ マイクロプラスチック回収・啓発活動

【事業計画№3－②－24・29・31・③－3】評価区分３

小笠原は「太平洋ゴミベルト地帯」と呼ばれる海ごみが集まりやすい海域にあり、大神山公園にある大村海岸にもマイクロプラスチック（5 ㎜以下の微細なプラスチックごみ）が無数に漂着しています。

そこで、私たちは７月から、おがさわら丸の出港日または前日に**大村海岸でマイクロプラスチック回収・啓発活動**を開始し、**年間 30 回実施**しました。**観光客や家族連れの公園利用者**に、職員が**子どもでも分かるように工夫して作成した啓発チラシを配布し、一緒に回収**活動を行いました（**延べ参加者数約 500 人**）。「きれいに見えた大村海岸にもこんなにマイクロプラスチックが！」と驚く参加者も多く、**海ごみ問題解決に向けた取組として理解**していただくことができました。**啓発チラシは小笠原小学校の児童全員に配布し、環境保全の授業に活用**していただきました。

親しみやすい啓発チラシ

マイクロプラスチック回収・啓発活動の様子

また、さらに、環境省・林野庁・小笠原村・NPO 小笠原海洋島研究会（BOISS）との連携による「海ごみゼロ」活動に協力し、「マイクロプラスチックごみ回収ボックス」を大村海岸に設置しました。砂遊びをしながら**回収活動を行う家族連れの姿が毎日のように見られ**（年間回収量約 1,000ｇ）、**公園の取組が浸透**していることを実感しました。

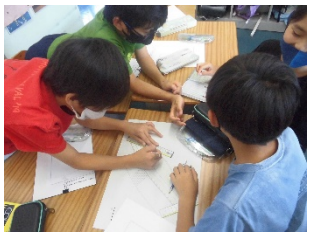
「島っこ」たちの外来種駆除と固有種保全に向けた取組で、世界自然遺産小笠原の魅力を伝える新たなスポットを創出

【事業計画№3－②－31・③－38・№4－都－5】評価区分 22

小笠原高等学校との連携を継続し、今年度は 1 年生 15 人がヒメツバキの谷入口一帯の**外来種**ギンネムとシマグワ（合計約 200 本）、ホナガソウ等を**駆除、固有種**のコブガシ、テリハハマボウ等（合計約 100 本）を**植栽**しました。生徒たちの活動を紹介するボードを設置し、**世界自然遺産小笠原の魅力を伝える新たな観察の場を提供**することができました。

高校生によるギンネム除去作業

また、**昨年度に引き続き小笠原小学校の総合学習に協力**し、4 年生 30 人に公園からの課題「公園を作ろう！2」に取り組んでもらいました。植物調査員や造園業者、小笠原支庁と連携して、**今年度は児童や保護者など島民に親しまれる大神山地区学校前広場に固有種を主体とした植栽の設計図を作成**しました。また、昨年度の設計図を基にコミュニティ広場に実際の植栽を行い、**公園の新たなビュースポットを創出**しました。


設計図作成に取り組む小学生

世界自然遺産小笠原をもっと知ってもらう広報活動の拡充

【事業計画№3－②－35・39・66・71・77・78】評価区分 21

コロナ禍で来島自粛となる中、小笠原の魅力を広く発信するため、積極的に新しい取組を行いました。

メイン展望台ライブカメラ

TOKYOMX テレビとの連携により、大神山公園メイン展望台に設置した**ライブカメラの映像を、12 月からお昼のニュースの背景や気象災害時の現地状況の報道などで使用**していただき、小笠原・大神山公園の「今」を島外にも広く伝えることができました。

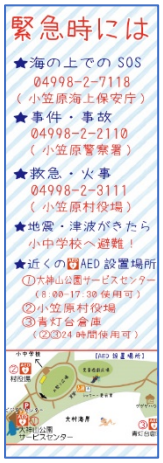
小峰「収穫市」の紹介コーナー

同じ公園協会が管理する**小峰ビジターセンターと連携**し、11 月 22 日開催の**「小峰ふれあい自然郷収穫市」に小笠原紹介コーナーを設置**しました。マイクロプラスチック回収・啓発活動の紹介や外来種駆除の発生材で製作したテーブルの展示などを行い、約 600 人の来場者に向けて大神山公園・小笠原ビジターセンターの取組を PR することができました。

また、**平日毎日の Twitter 投稿**も継続し、フォロワー数は**昨年度末の 900 人余りから約 1,400 人に増大**しました。また、YouTube に公園協会の公式アカウントができたのに併せ、公園紹介の動画を作成して公開する取組にも挑戦しました。

いつでも、万が一の時にも、安全・安心を提供するために、防災力向上と危機管理体制強化の取組

【事業計画№3－①－5・③－1・11・16・19】評価区分 13・14



緊急時の表示板

南海トラフ地震等の大規模災害時だけでなく、日常的に園内や海上での事故・災害が発生した場合に公園利用者が落ち着いて、安全に行動できるよう、118 番を含む**緊急時の連絡先**、AED 設置箇所、**津波発生時の避難場所等が分かる表示板を新たに作成**し、大村海岸の休憩所・デッキに設置しました。**感染症予防対策の表示と併せ、公園利用者からは「いつでも安心して利用できます。」**と感謝の言葉をいただきました。

感染症予防対策の表示

また、昨年度は風速 50m を越える台風 21 号ほか多くの大型台風が襲来したことから、今後の**超大型台風の襲来に備え、お祭り広場の高木剪定**を行いました。倒木等による園内外への被害を未然に防ぐだけでなく、近隣住民から「旭山の頂上が見えるようになって嬉しい。」と喜ばれる等、景観改善にもつながりました。

高木剪定前

高木剪定後

その他各種防災訓練への参加を通じて防災対応力を高めるとともに、**全職員が上級救命技能認定講習を受講していつでも緊急時対応ができる体制を整える**など、危機管理体制の強化に取り組み、安心・安全な環境を提供しました。